

いよいよ令和の時代が始まった。平成の時代を振り返ると、山梨県経済は、バブル崩壊やリーマンショックの影響等から厳しい局面を迎えた時期もあったが、近年は海外経済の安定的な成長を背景に、輸出企業を中心に生産が高水準を維持したほか、観光関連企業でもインバウンド需要の大幅な拡大に伴って繁忙感が高まるなど、基調としては緩やかな拡大が続く展開となった。新たな時代に県内経済はこのよ

### 展望台

## 新たな時代での山梨の飛躍に向けて

長江 敬

うな経路を辿るのであるうか。この点、先行きを展望する際に前提となるのが全国を上回るテンポで進んでいく人口減少である。中長期的には今後、県内需要に

めめ強力なアドバンテージを有していることを忘れてはならない。具体的には、①世界規模でIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）などの活用が進展する中

観光資源が数多く揃っている当県では、訪日外国人をはじめとする観光需要の更なる獲得を見込めること。③中部横断自動車道の全面開通やリニア中央新幹線の開通といった交通インフラの整備が進むこと。これは、県内への企業誘致や移住者の増加に加え、①や②分野にもプラスに作用する可能性がある。人口減少が避けられない令和の時代においても、官民一体となってこうした強みを活かし、山梨県経済が一段と発展していくことを期待したい。

(日銀甲府支店長)